

刊行にあたって

『住民参加でつくる福祉社会かながわ』を標榜し、1992年策定の第二次活動推進計画に基づいて事業展開を図っている本会は、「人権尊重とノーマライゼーションの理念に基づき、一人ひとりの生涯にわたる生活を総合的に支えるしくみを、地域を基盤に、住民の主体的参加を基礎とした公私協働の実践を通じてつくる」ことを地域福祉の目標に据えている。時を同じくして1992年に始まった本会の在住外国人の生活支援関連事業は、まさにこの計画に位置づけられたもので、「自立した地域生活の確保と社会参加の促進」の一環として取り組んできた。

1995年3月には『在住外国人の生活支援方策 - 提言 -』をまとめ、県域・市町村域で今後実施していくべきことを明らかにした。その中で、「日本人が外国人の生活実態を理解し、同じ地域に暮らす隣人として各自の文化や生活問題等を共有化する社会づくり、地域づくりをめざす」ことを確認したが、具体的な手順や地域づくりのプログラムの検討はさらなる課題として残っているところである。

この度、神奈川の新たな地域福祉実践の創出に参考になるのではないかと、資料を紹介された。オーストラリアのカブラマタ地域という海外の実践である。日本において神奈川において海を越えたこの資料がどのような価値を発揮するか、今後に期待するところである。翻訳してさらに編集したということで読みづらさもあると思うが、是非ご一読いただき、各自の実践のヒントとしてご活用願いたい。

最後に、この冊子の編集にご協力をいただいた皆様に厚くお礼を申し上げる。

1996年3月

社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
会長 有馬嗣郎

目 次

監修者のことば

「多文化共生を支えるための活動と拠点」 p. 1

座談会

「神奈川で多文化共生社会を実現するために」 p. 2

オーストラリアの多文化政策

～カブラマタ・コミュニティ・センターのできる背景～ p.14

カブラマタ地域とカブラマタ・コミュニティ・センターの概要 p.18

各センター及びサービス・活動の紹介 p.24

No.	タ イ ト ル	頁
1	CABRAMATTA NEIGHBOURHOOD CENTRE カブラマタ・コミュニティ・センターのネットワーク	25
2	FAIRFIELD MIGRANT RESOURCE CENTRE フェアフィールド移民援助センター	31
	Special Migrant Placement Officer 移民の定住促進プロジェクト	34
	Multicultural Employment and Training Program 多文化を配慮した雇用指導と職業訓練	36
	Multicultural Aged Resource Service Project 多文化を配慮した高齢者援助サービスプロジェクト	37
	Indo-Chinese Youth Development Officer インドシナの青年支援プロジェクト	38
	Refugee Women and Children Project 難民女性と子どものための支援プロジェクト	39
3	CARRAMAR COMMUNITY CENTRE カラマー・コミュニティ・センター	41
	FAIRFIELD COMMUNITY ARTS NETWORK フェアフィールド・コミュニティ・アート・ネットワーク	45
4	MOUNT PRITCHARD & CABRAMATTA WEST COMMUNITY CENTRE マウント・プリチャード並びにカブラマタ西コミュニティセンター	47
	Innovative Out Of School Hours Care 放課後保育プロジェクト	50

監修者のことば

多文化共生を支えるための活動と拠点

異なる文化を持つ者たちが平和で充実した生活を送る社会のモデルを、今までの人類の歴史の中に見いだすことは難しい。あまりにも権力の衝突、争い、抑圧の歴史が長いためである。多文化共生は私たちがこれから試される最も切実な課題であり、チャレンジである。外側のチャレンジだけではなく、内側のチャレンジすなわち心の持ち方の見直しともいえよう。それは一人ひとりが持っている価値観や概念、心の隅にある差別感、感情、わがままを認識することから始まる。

移民政策によって移動する人、出稼ぎ労働者として移動する人、夢を迫りかけて移動する人、好奇心によって移動する人、企業に送り出されて移動する人、国際結婚によって異文化の中に飛び込む人、様々である。そこには必ず生活があり、異文化の中で生きる者としての緊張感、不安、孤独、寂しさ、弱さがある。

オーストラリアで生じた問題は、今、日本で生活している外国人の問題と重なるものが多い。伝統的な家族の絆の喪失、住宅問題、外国人女性の孤立、世代（親と子）の衝突、雇用及び失業によるストレスなどである。世界経済がつくった南北問題に対し、移民を送る側の国も送られる側の国も取り組まなければならない問題はたくさんある。そして、その問題に地域から取り組む時代ともなっている。

これだけ世界規模で人間が移動している時代において、マイノリティのグループがマジョリティの中でどう生きていくかについて考え、整備することは緊急の課題である。共生の根本にある、人間が生まれながらにして持つ人権の保障に対して、法、制度、支援、組織がどのようにあるべきかを明らかにしておかなければならない。その対策のひとつとして、共生への道を研究し開拓する拠点が求められる。この冊子は、そのような問題意識を地域福祉実践に投影する際の参考資料としてまとめたものである。多くの人に手に取り読んでほしいと考えている。

地域から世界へ、多文化の交流、お互いを認め合うこと、そこから生まれる絆は、何よりも強い平和への橋を築くことができる。誰もが自分らしく生き、また、その人生の価値を社会で見いだせることを願う。

”The futuer is not a place we are going to, but one we create”

（未来は、私たちがいつか辿り着く所ではなく、私たちが築く所である）

”Make A WORLD OF DIFFERENCE” より

1996年3月
豊住 マルシア